

L L ニュース

No. 40

March 15, 2010

愛知大学豊橋語学教育研究室

特集 —オススメ外国語学習法—



トンレサップ湖に浮かぶ湖上集落（カンボジア）

(写真提供：国際コミュニケーション学部 加納 寛)

CONTENTS

◎ 特集 — オススメ外国語学習法 —	● 外国語学習には何が大事か？(清水伸子)	16
● 英語で読む小説、	● オススメ韓国語学習法(世古口 真)	18
たとえば『ノルウェイの森』であるとか(小島基洋).....	● オススメじゃん!! タイ語学習法(加納 寛)	20
4	● 日本で、日本語で。(山本雅子)	23
● 外国語との付き合い方(國崎 稔)	◎ LL Tea Time	
● Learning English so you can USE English (Laura L. Kusaka)	● Life Changing Experience in Hawaii(野々山千花)	25
7	● Coolな日本人! フランスで学び得たこと(山田麻雅)	26
● 好きなものからやる、興味のあるものからやる	◎ 2010年度外国語検定試験奨励金	28
-D-Pop・マンガ・ジブリ・GSG9で学ぶドイツ語ー(鈴木康志).....	◎ 公開講座「言語」2010プログラム	28
9		
● 毎日フランス語を使う(高橋秀雄)		
12		
● 「アナログ」的中国語学習の心得(塩山正純).....		
14		

英語で読む小説、たとえば『ノルウェイの森』であるとか

文学部

小島 基洋

「スペイン語始めたんですか？」

「うん。語学はひとつでも沢山できた方が役に立つし、だいたい生来俺はそういう得意なんだ。フランス語だって独学でやってきてほとんど完璧だしな。ゲームと同じさ。ルールがひとつ分かったら、あとはいくつやったってみんな同じなんだよ。・・・」

一村上春樹 『ノルウェイの森』

フランス語どころか、英語すら完璧にならない学生さんから（それが普通です。もちろん。）、幾度となく発せられたこの問い合わせ——「どうやったら英語ができるようになるんですか？」。僕は三十七通りの答えを用意していますが、今日はそのうちのひとつをご紹介します。

翻訳英語小説のススメ

ズバリ、本を読もう。これです。拍子抜けするほど古典的な答えですが、いくつか大事なポイントがあるのです。

まず、小説であること。小説は、新聞と違って、政治・経済用語に偏らず、日常生活に密着した言葉で書かれています。しかも、登場人物の心情と、リアルな会話を通して、英語世界をヴァーチャルに生きることができる優れた語学教材なのです。

ただ、注意することがひとつ。小説を英語で読むのは、結構、難しいのです。高校の英語の教科書とは難易度が違います。本選びに関しては、慎重になる必要があるかもしれません。

そこで二つ目のポイント。翻訳小説を選ぶこと。

つまり、英語圏の作家が書いたものではなくて、フランス語、ドイツ語、ロシア語など、別の言語で書かれた小説の英語版を選ぶこと。それがコツです。というのも、英語に翻訳された小説というのは、総じて読みやすいからです。

なぜ翻訳小説は簡単に読めるのか？

そもそも作家は言葉のプロです。彼らが技芸を尽くして書きあげた見事な文章は、単語も構文も難しくなるはず。そんな文章を訳す作業は困難を極めます。そこで翻訳者は次のような戦略をとることになります——文章の華麗さを犠牲にしてでも、文章の意味を損なわないで訳すこと。そう、だから、翻訳小説の英語は、比較的シンプルになるのです。

ドトールのコーヒーと『罪と罰』

たとえば、ドストエフスキイの『罪と罰』 (*Crime and Punishment*)、ホメロスの『オデュッセイア』 (*The Odyssey*)、スタンダールの『赤と黒』 (*The Red and the Black*)。世界文学史に燐然と輝く名著を次々と読破していく。片手にはマクドナルドの100円コーヒー。あるいは奮発して、170円のドトール・コーヒー。それは、学生時代における僕自身の英語学習法でもありました。そして、いつの間にやら、本棚には『ロミオとジュリエット』 (*Romeo and Juliet*)、『ロビンソン・クルーソー』 (*Robinson Crusoe*)、『嵐が丘』 (*Wuthering Heights*)、『不思議の国のアリス』 (*Alice's Adventures in Wonderland*)、『シャーロックホームズ』 (*Sherlock Holmes*) シリーズ。気づけば、僕は英文学の虜になっていたのです・・・・が、それはまた別の話。

村上春樹、あるいはHaruki Murakami

英語に翻訳された世界文学と言えば・・・・。ここで、われらが日本文学から一人の作家に登場願います。そう、村上春樹です。世界を代表とする小説家となった彼のことは、むしろHaruki Murakamiと呼んだ方がよいかもしれません。『1Q84』が2009年のベストセラーになり、毎年、ノーベル賞

の季節になると名前が取りざたされる村上春樹、いや、Haruki Murakamiです。

村上春樹は、最早、島国・日本のマイナー作家ではないのだ!——僕がそれを実感したのは、2006年、英国でのことでした。ロンドンの中心街ピカデリー サーカスにある欧洲最大の書店「ウォーターストーン」。そこで目にした衝撃的な光景。A—Z順に並んだ小説家の中で最大の売り場面積を占有する作家は、Mの棚を2段占拠したHaruki Murakamiだったので!ベストセラー・リストの最上位には最新刊 *Kafka on the Shore* (『海辺のカフカ』) が輝き、青春文学の金字塔 *The Catcher in the Rye* (『ライ麦畑でつかまえて』) の隣りには、*Norwegian Wood* (『ノルウェイの森』) が、店員の熱い推薦文と共に、高く積まれていたのです。

『ノルウェイの森』、あるいは*Norwegian Wood*

『ノルウェイの森』。四十か国語以上に翻訳され、国内売り上げが、単行本・文庫本合わせて1000万部を超えた(100万部じゃありません)作品です。今年、トラン・アン・ウン監督、松山ケンイチ主演で映画化されもします(実に不安・・・)。本作について、これ以上語る必要はないでしょう。

もしも付け加えることがあるとしたら、これだけです。『ノルウェイの森』は、「大人になることの痛みと哀しみ」について描かれた小説であるということ。この記事を読んでいる——大人になれない、大人になろうとしている、あるいは、大人になってしまった——二十歳前後の皆さんにお勧めする理由は、ここにあります。

その五月の気持ちの良い昼下がりに、昼食がすむとキズキは僕に午後の授業をすっぽかして玉でも撞きにいかないかと言った。僕もとくに午後の授業に興味があるわけではなかったので学校を出てぶらぶらと坂を下って港の方まで行き、ビリヤード屋に入って四ゲームほど玉を撞いた。最初のゲームを軽く僕がとると彼は急に真剣になって残りの三ゲームを全部勝ってしまった。約束どおり僕がゲーム代を払

った。彼はゲームのあいだ彼は冗談ひとつ言わなかった。これはとても珍しいことだった。ゲームが終わると我々は一服してたばこを吸った。

「今日は珍しく真剣だったじゃないか」と僕は訊いてみた。

「今日は負けたくなかったんだよ」とキズキは満足そうに笑いながら言った。

彼はその夜、自宅のガレージの中で死んだ。N360の排気パイプにゴム・ホースをつないで、窓の隙間をガム・テープで目ぼりしてからエンジンをふかせたのだ。・・・

It had been a nice afternoon in May. After lunch, Kizuki suggested we skip classes and go play pool or something. I had no special interest in my afternoon classes, so together we left school, ambled down the hill to a pool hall on the harbor, and played four games. When I won the first, easy-going game, he became serious and won the next three. This meant I paid, according to our custom. Kizuki did not make a single joke as we played, which was most unusual. We smoked afterwards.

“Why so serious?” I asked.

“I didn’t want to lose today,” said Kizuki with a satisfied smile.”

He died that night in his garage. He led a rubber hose from the exhaust pipe of his N-360 to a window, taped over the gap in the window, and revved the engine....



外国語との付き合い方

経済学部

國 崎 槿

経済学者として外国語の利用方法について何か書いてもらえないだろうかとの依頼を頂いて、あまり深く考えずに気楽に引き受けてしまい、さて原稿を書くことになりハタと気がついたことからはじめたい。

そもそも、小生は経済学者の看板を背負って、かれこれ20年近くなる。職業がら、外国語とくに英語を使う機会がまことに多い。しかしこれまでの体験において、日本での学校教育の語学授業しか受けてこなかったことに今更気づき、ハタと困惑した次第である。そこで、これまでの語学教育の記憶をたどると、また恥ずかしいことだらけで、それを皆さんに披露することは、健全な語学教育に対して百害あって一利なしのありさまである。たとえば、中学校である単語を勉強するのに、「バセバ11」と記憶したことをいまだに覚えているぐらいである。ちなみにこの単語がわかる人は、ご同類の方と拝察いたします。

高校では、ご他聞にもれず受験のための文法授業が嫌で仕方なかった。試験前には、友人から帰り道に「びっくりうどん」を対価に集約的自主学習を受けていたほどである。しかし、学校教育とは恐ろしいもので中高生のときの内容はよく覚えているものである。現在の小生では到底できない芸当である。

大学生時代も、正規の語学講義以外熱心に勉強した記憶はあまり残っていない。しかし、外国語の「ユーザー」の始まりもやはり、大学生のときである。そのころ、経済学の面白さに目覚め、テキストやさまざまな初步的知識を面白おかしく集めていた。そして、生意気にも洋書や、わかりもしない専門論文を眺めては、喜んでいたものである。もちろん眺め

ているだけでは、教員を驚かすことも友人にひけらかすこともできないので、いやおうなしに英語にトライすることになった。結果は容易にわかっていたのであるが、予想通り撃沈と再挑戦の繰り返しであった。今振り返れば、あのときの自分に会ってみたい気分が年々強くなっている。

このような学生時代をすごした小生が、この文章をかいていること自体、おかしさとまんざらでもない気分である。小生はもちろん言語学や外国語教育の門外漢である。したがって、語学に関する体系的な説明や理屈付けはできないし、そのような恐れ多いことは一切考えていない。ただ、経済学という学問を研究する生活の上での外国語、特に英語のいちユーザーとしての体験を、恥ずかしながら皆様にご披露する次第です。

読むことのつらさと発見

最近の初等・中等教育の現状については知らないが、町を歩いていると幼児・小学生向け英会話スクールの看板をよく見かける。英語の早期習得を促すことはまことに結構なことと感心しながら、そういえば大学でも会話重視になっている現状に気づく次第である。

ただわが身の経験からすると、英語に最初にふれたのは、まず読むことであった。読むといつても知らない単語ばかりだから必然的に辞書のお世話になる。辞書とはまことにありがたいもので、単語の意味、用法、類語さらには歴史的背景まで書いてある。さらには文法や禁則などいたれりつくせりである。余談であるが、一番面白かったのは英語圏の地図がついていて町の名前が細かく書いてあることである。サッカーファンの小生は「ダイアモンド・サッカー」にててくるイングランドのチームの場所を探るのが楽しみであった。

ただ、初学の悲しさか、「楽しい」と「面白い」の区別がつかないし、違う言葉が同じだと考えてしまう失敗は数々ある。そこで日付いたことは、英単語を漢字に直せばどうなるのだろうかということであった。できるだけ「ひらがな」ではなく漢字

をメインにして訳すのである。すると言葉のイメージ・トレーニングが徐々にできてきて思ったよりも言葉の差異が納得できた。ただし、このやり方は、まったくお勧めしないし、やってはだめである。それは英国留学のときに痛感したことであるが、訳出は便宜であり、本質ではないということである。

このような体験で大変役立つものは、シソーラスである。ある言葉を調べるときには、その意味を直線的に知りたいのが人情である。しかしここで急がば回れの言葉通り、シソーラスを引いてみよう。すると、似て非なるものが続々出てくる。そればかりか用法例でその使い方の違いやニュアンスまで嗅ぎ取れるのである。まことに、格言とはありがたいものである。ここまでくれば、言葉の意味や語彙まで習得でき後々役に立った。

ここで経済学の専門用語を例にすると、「利潤」という概念は「もうけ」とは異なる概念である。「利潤」は英語の訳であり、「もうけ」は日本語である。これらは一見よく似ているが、「もうけ」は主観的であり時間的基準もない。しかし「利潤」は抽象的時間内でのある種の客観的な残余物である。したがって、これら二つの言葉を英語に訳すると「もうけ」と「利潤」は異なる言葉になる。経済学に限らず共通言語として英語を用いる学問は、背後に定義が明確にある。その定義自体を理解せずに英文を読むと、正確性を必要とする学問を習得することは困難であるばかりか、いやになる原因もある。

読むことは、言い換えればその文章の論理展開を理解することである。したがって言葉の語意とニュアンスは表裏一体の関係にあり、言葉を丸ごと知ることが肝心のようである。さらに論理的思考は読むことから習得できる。したがって、読むこと恐るべしである。

書くことのおそろしさ

経済学者に限らず、研究者は職業がら英文論文を書くことが多い。経済学者の場合は多いというよりも必要条件に近い状況であり、否応無しに書かなければならぬ。それは、ちょっと大げさに言えば自

身の学術成果を世界に問うための手段である。しかし、これが厄介なしろもので、これまでどれほど苦しまされたことかトホホな気分である。

学術論文とは、専門家同士の知的コミュニケーションと相互競争である。そこで求められることは、学術成果の意義と独創性を論理的に一貫した姿勢で整合的に証明することである。

言葉で書くと堅苦しいが、要するにある問題を間違いなく明らかにすることである。しかし、そのためには、誇張や曖昧さをできる限りそぎ落として、簡潔にかつ過不足なく読者に理解させなければならない。

初めて英文論文を書いたのは大学院生のころであった。論文のテーマも決まり、数学的証明も完成して、さあ書き始めるとまったく文章が浮かばないのである。仕方がないので日本語で書いてからそれを英訳しようとしたが、これがろくでもないシロモノで、途中でやめてしまったほどである。

この失敗の原因は明白で、英文は日本文ではないということに尽きる。こんな当たり前のことを大学院生にもなって気づいたときには、絶望感いっぱいできこれからこの商売をやっていけるとは全然思えなかつた。後日、先輩に恐る恐る相談したとき、いたく簡単に处方箋を書いてくれた。すなわち、知らないことは書けないから、まねろということである。ここでもねるということは、文章を盗作するということではなく、文章の使い方をまねろという意味である。これは目からうろこが落ちた気分で、がむしゃらに物まね論文（中身はもちろんオリジナルであるが）を書き終えたときは妙な充実感があった。

ここでの教訓は、自分の言葉で書くということである。文章はうたうように書くのだが、文章がうたえないのでは書けないとということである。それは定型句や慣用句のパターン認識もあるが、それだけではなく文章の全体構成を考えたうえで適切な文章を組み立てる作業もある。したがって、文章のシナリオ構成力と表現力が試されるのである。これは単なる技術ではなく、大げさに言えばその人の内なるものに依存するのである。であるから、書くこと

は、終わりのない修行であり、人格表現なのである。

おもてなしの心

先日イタリアで開かれた国際会議に出席して司会を仰せつかった。そのときには若手研究者の報告があり、予定された討論者と参加者からの質問をさばく交通整理が主な役割であった。そこで常に気にかけていることは、参加者に論文内容を理解してもらうことと、研究内容を発展させるような議論を促すことである。

これが厄介な課題である。なぜなら参加者のなかには、なかなか「イケズナ」人がいるのである。ご本人はいたって論理的だと思っているからなおこまる。報告者は自分のことで精一杯であるから、ややもすると議論は険悪な雰囲気になる。そこで小生の出番であるが、その場合には、まず相互の誤解がどこにあるかを考え、両者に確認する。そして、誤解が解けたならそれでよし、そうでなければ論理的齟齬をやんわりと伝えるのである。そして、くだんのイケズさんには間接話法でたしなめるという次第である。これで大体の局面はしのげるのである。

ここで重要なことは、不真面目な人はいないという前提で状況判断をすること、そして人は何を求めているのか、あるいは何を言いたいかを斟酌することである。そのためには、相手の言い分を聞くだけでなく、こちらの想像を確信に近づけるための「前ふり」作業が必要である。単に聞き役に徹していくは、議論は平行線のままである。リアクションだけでは会話にならない。

理屈っぽくいえば、会話のシュッタケルベルグ・リーダーになって先手を取ることが肝要である。そのためにも、相手がリアクションできるよう心がけている。言い換えれば、もうすこし相手のことを考えましょうということである。さらに、一度にすべてを語ろうとしないことも必要である。一刀両断で話すのは格好いいようであるが、会話は全く成り立たないばかりか、相互不信を生み出す原因である。思いは小出しにして、ステップを踏むように進むのがいいのではないだろうか。

最後に蛇足であるが、口角はいつも上げるように心がけている。表情は口ほどにものを言い、ということでその効果はてきめんである。特に初対面の人と会ったとき、こちらは「鎧を着ていません」というサインにもなり、打ち解けた雰囲気を作り出すのである。それこそが相手だけでなく、自分自身の能力を発揮する隠れ技にもなる。

努力もまたたのし

ここまで書き続けてお気づきと思うが、外国語との付き合い方は実は日本語との付き合い方でもある。なぜならば、いかなる言葉も人との結びつきそのものである。さらに表現する内容と表現方法は、まさに人格そのものである。

当然、ひとが成長するとともに、表現したいことや状況は変化していく。自らの環境変化に伴い、自らの表現能力もそれに対応しなければならない。これは言うはやさしくおこなうは難しだる。しかし、この成長過程とうまく付き合うことは自分自身の幸福な瞬間もある。言い古されたことであるが、失敗を繰り返すことは必ず次の成長につながるのである。特に学生諸君には臆することなく不断の努力を続けることを強く希望する次第である。最後にこの拙文が読者の一助となれば幸甚である。



日伊ワークショップにて

Learning English so you can USE English

Junior College Department

Laura L. Kusaka

Many chances to USE English

Welcome to Aichi University! You are probably both excited and a little worried about how to study English at the university. The important point is that you will be learning English so you can USE it. In Communicative English and other classes, English will be used most of the time. Reading and writing will be done in English and you can learn new things and express your ideas in English. Sometimes you will use the internet to find information in English. Then, you might have the chance to make a short presentation or speech in English on what you learned.

Other chances to use English are when you meet international students on campus. There are many students from different countries studying at Aichi University. Some of them speak English as their first or second language. In addition, you may choose to study abroad in the U.K., Canada, Australia, or the U.S. on Aichi University overseas programs. Spring and summer vacations are good opportunities to go abroad for a month or longer. For Junior College students, there is a short-term program in Hawaii.

Skills you already have

During high school, you probably used word cards (単語帳) to learn new words. This is a very good way to learn new words IF you write the English word on one side and the Japanese translation on the other side. You can also use word cards to learn short sentences. For example, you want remember how to ask a question about spelling, so you write 「How do you spell university?」 on one side and 「University のつづりは？」 on the other side. Each time you find a new word in your reading or if the teacher uses a new word, make a word card

for it. When you have free time on the train, waiting at the bus stop, or at home, you can look at the word cards and check to see if you have remembered them. Building your vocabulary is very important to be able to talk about many different topics.



Word Cards

To make reading more useful and enjoyable, read interesting stories at the right level for you. There are many graded readers (レベル別短編) in the library on the 3rd floor and in the LL 資料室 in Building 3. You can find the level that is just right for you. Most of these books also have pictures to make them interesting. What is important is to read in English and do not translate into Japanese. You will be surprised how fun it is to read an interesting story and forget that you are reading it IN English. There are many types of graded readers: adventure, mystery, love story, and famous books written in easy English. Reading one graded reader every two weeks is good way to begin. You can increase the number of graded readers as your confidence improves.



Graded Readers

New study skills

There are many opportunities to hear naturally spoken English today in Japan. For example, there are many TV programs which you can watch in both Japanese and English. There are news programs, movies, TV dramas, documentaries, and sports broadcasts so you can choose the topic you are interested in. At home, record a TV program and watch it Japanese and then English or reverse. Repeat the scenes that were difficult to understand until you think you know what is being said. Also try to say some new words or phrases as you listen. This technique is called **shadowing** because you follow the speaker on TV with your voice. When you listen to English a lot, you can start to feel the rhythm of spoken English. You will also notice that words are often connected together when people speak. For example, “I was at the station” sounds like “I wazzat the station” because ‘was’ and ‘at’ are connected and they sound like ‘wazzat.’

You can also use the many videos and DVDs in the LL資料室 and watch them in a special room with TVs and headphones. There are popular movies, TV dramas (U.S.A., U.K.), and documentaries to choose from. When you have free time between classes, drop in and browse. You will find something you like (and it's free!)



DVDs

Speaking practice can be done many different ways. There are clubs at Aichi University which focus on learning and using English. Talk to the members and find out more about their activities. In your English (or other) classes, find classmates who want to speak in English. You can meet regularly at lunch or after classes and have a

special “English” time. You can talk about school life, club activities, part-time jobs, music in a friendly atmosphere. Try recording these conversations and listening to them. You will notice what went smoothly and what was difficult to say. If you prefer to study alone, you can read aloud a story or news article, practice a dialogue from your textbook, or pretend you are making a presentation about a topic. Being able to talk about your own culture can be one goal for such speaking practice.

For the ‘techie’

If you like to use your IT skills, there are many ways to use the internet to access websites in English. Some of these are interactive and you can exchange messages with other people. Others offer information to read and you can comment on them, such as newspaper articles. In either case, you will be developing your reading and writing skills as well as gaining information about topics not available in your own language. YouTube is another site which gives you the opportunity for listening to a wide range of topics, some serious, some not.

Bumpy road

I have given some examples of how you can improve your English study skills. Some of them you are already using and some of them are new. What is important is to try many different study skills and find what works best for you. Also remember that learning a language usually does not go smoothly. Sometimes, you will feel like you have made no progress even after trying for a long time. However, learning a language does take time, so don't give up! Do not expect to be a perfect speaker or writer of English in a short time. What is important is wanting to communicate, having something to say, and making the effort. For those of you who have read this article, you have taken some important steps in language learning. I hope you will continue to find learning a language an enjoyable challenge, which has its rewards that can last a lifetime.

好きなものからやる、 興味のあるものからやる —D-Pop・マンガ・ジブリ・ GSG9で学ぶドイツ語—

文学部

鈴木 康志

ドイツ南西部、シュヴァルトヴァルト(黒い森)の西側に、環境都市としても有名な大学町フライブルクがあります。そのフライブルクで、ドイツの英文学の女性教授と共同研究をしていたことがありました。彼女が大学の講義でも、講演会でもあまりに流暢に(彼女にとって外国語の)英語を使いこなしていいたため、一緒に食事をしたとき「なんでそんなに英語が上手になったの?」と尋ねると、答えは簡単「Mit Fleiß!(一生懸命努力したの)」、つまり自分を取り巻く環境を英語にして、いつも英語で話し、書き、考え、英語を聞き、読むことを日課としているうちに、英語はドイツ語とともに彼女の母国語になったとのこと。そして「あなたも同じようにすればドイツ語バッチャリよ!」と言われました。

確かに外国語の学習は、できるだけその外国語と接すること、そして学習を継続することが大切です。その意味でこれは究極の外国語学習法かもしれません。外国からの聴講者も多かったフライブルク大学の講義で、英語を母国語とする学生や研究者たちを前にしながら、彼らを圧倒するような英語で英文学の講義を続ける彼女を見ていると、この学習法の説得力は感じましたが、ただそう簡単にはまねできません。

とはいって、外国語の学習ではやはりある程度の Mit Fleiß! は必要で、特に初めて学ぶ外国語の場合、授業に出席し、文法の基本を学ぶことは大切です。

でもそれ以外は好きなもの、興味のあるものからやるのが一番かもしれません。そこで今回は Mit Fleiß! は少しあいて、みんなの関心がもてそうなもの、あるいは経験的に興味をもってもらえると確信しているものを紹介したいと思います。

1. ジャーマン・ポップスで学ぶドイツ語

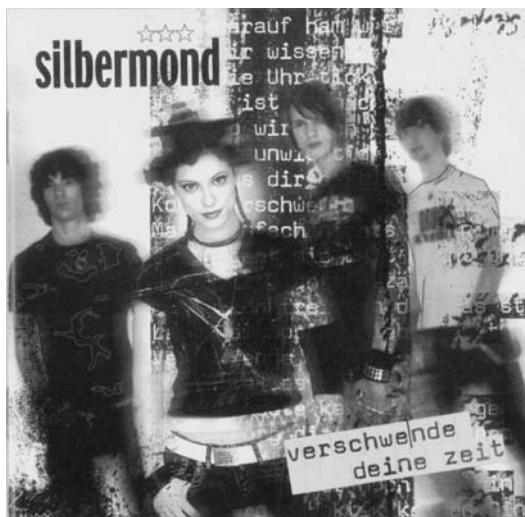
クラシック音楽はドイツ、現代のロック・ポップスはイギリス・アメリカというイメージがあるかもしれません。しかしドイツにも英米に劣らない素敵なロックとポップスがあります。しかも、このような現代ドイツのロック・ポップスに親しみながらドイツ語の初級文法を一通り学習することも可能です。

(『D-Popで学ぶドイツ語』(同学社) 参照)

以前であれば、ドイツに素敵なポップスがあるといつてもなかなか信じてもらえませんでしたが、最近は You Tube のお陰で、みなさんにおかれどかうかどうかすぐ確認してもらえます。例えば騙されたと思って You Tubeで、Silbermond(ジルバーモント)の Symphonie(シンフォニー)、Die Toten Hosen(トーテン・ホーゼン)の Du lebst nur einmal(人生は一度きり)、Yvonne Catterfeld(カッターフェルト)の Für Dich(あなたのために)、Christina Stürmer(シュトルマー)の Mama(ママ)、Tokio Hotel(トーキョー・ホテル)の Über Ende dieser Welt(この世の終わり)、Luttenberger & Klug(ルッテンベルガー & クルーグ)の Vergiss mich(私を忘れて)などを映像とともに聴いてみてください。最近19歳と20歳の女性Pop-Duoの Luttenberger にはまっていると授業で告白したら、次週それを聴いた多くの学生のみなさんから大きな賛同を得ました。ほんとうですよ。最近はネットで歌のテキストも簡単に入手できますので、テキストを見ながら聞くだけでも勉強になりますが、口ずさめるようになればさらにいいです。言葉は聴いて発音しないとね! それに紹介できなくて残念ですが、

ドイツのポップスは歌詞がとてもいいんです。

かつて多くの人がビートルズから英語を学んだように、ドイツポップスからドイツ語を学ぶことだって可能です。ちなみにビートルズもドイツで活躍していたためドイツ語で歌っています。お勧めは “I want to hold your hand” のドイツ語版 “Komm, gib mir deine Hand” です。ビートルズのアルバム” Past-Masters · Volume One” に “She loves you” のドイツ語版 “Sie liebt dich” とともに収録されていて、簡単に入手できます。



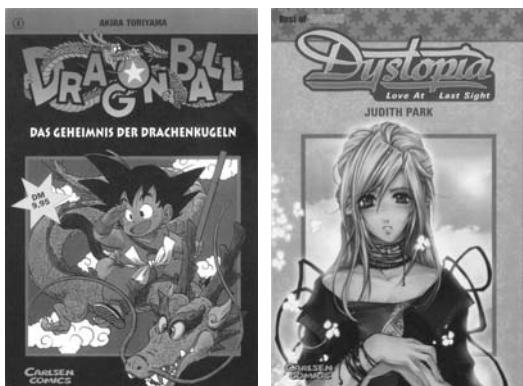
お勧めのCDの一つが Silbermondの
verschwende deine Zeit です。

2. 日本のアニメ（マンガ）で学ぶドイツ語

MANGAやANIMEは日本文化の最大の輸出の一つかもしれません。ドイツの本屋でも大きなマンガコーナーがあり、日本のマンガのドイツ語訳が数多くならべられています。その火付け役は鳥山明の『ドラゴンボール』で、ドイツ語版 "Dragonball" が画期的だったのは、その売り上げ部数とともに、読む方向も日本式の右開き(欧米の本はすべて左開き)になったことです。そのため本の最後(欧米の本では最初)のページに「止まれ！(ここから読むな！)このコミックはこのページからは始まらない。この本は「(私たちにとっては)後ろ」から開き、1ページ

ごと「前」にむかってページをめくっていかなければならない」と注意が書かれています。ある意味で日本のマンガが欧米の本の文化を変えてしまったと言えるかもしれません。みなさんが好きなマンガのいくつかは必ずドイツ語に翻訳されていると思います。もちろんドイツ語それ自体やさしくありませんし、正確な逐語訳でもありませんが、絵はほとんど同じですし、みなさんはすでに一度日本語で読み、内容を知っているため、けっこう読めて、しかも勉強になります。丸善など大きな書店で1000円程度で購入できますし、Amazon.de で購入することもできます。最近は随分早く届くようになりましたが、郵送費がけっこうかかります。

そしてさらに驚くべきことは、日本のマンガに刺激され、2000年代になると公式のドイツマンガが発行されるようになり、Germanga(ジャーマン・マンガ)がブームになります。ユーディット・パークの”Dystopia” やニナ・ヴェルナーの”Jibun-Jishin”などを読むと日本のマンガのようで、本当にドイツ人が書いたのかと驚きます。ドイツ語圏の最大のマンガのポータルサイトは www.animexx.de です。愛知大学には 一どこの学部とは言いませんが マンガオタクの先生がけっこういらっしゃいますし、そのオタクの研究者までみえますので、アニメを通して外国語を学んでも叱られることはないと思います。



鳥山明『ドラゴンボール』のドイツ語版と
ジャーマンマンガ、ユーディット・パークの”Dystopia”）

3. ジブリ・GSG 9などで学ぶドイツ語

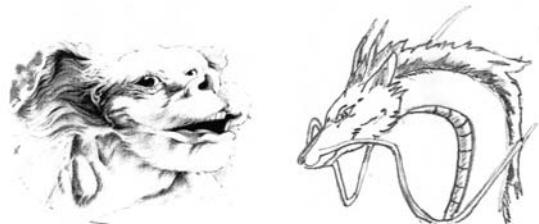
宮崎駿アニメ、ジブリが好きな方は多いと思います。『魔女の宅急便』や『ハウルの動く城』の街並みはまさにドイツの町ですね。例えば『魔女の宅急便』のパン屋さんはドイツ、ローテンブルクのあのパン屋さんだらうか？と思ったりします。また一見日本的な『千と千尋の神隠し』もミヒヤエル・エンデの『はてしない物語』（映画『ネバーエンディング・ストーリー』）と話の展開や竜の「ハク」と「ファルコン」など似ていておもしろいですね。

ところで、宮崎アニメにはほぼすべてのドイツ語版DVDが発売されています。日本語音声、ドイツ語字幕でも、ドイツ語音声（やや違和感があるかもしれません）、日本語字幕、ドイツ語字幕で見ることもできます。ドイツ語字幕の場合は、おもしろい日本語がドイツ語でどんな風に訳されているかを見るのも楽しいと思います。例えば『トトロ』の「まっくろくろすけ」は「Schwarze Rußkobolde（黒い煤の小妖精）」というドイツ語になっています。ジブリには、繰り返し見るリピーターが多くいるようですので、すでに内容がわかっているれば、ドイツ語音声で見てみるのもいいと思います。

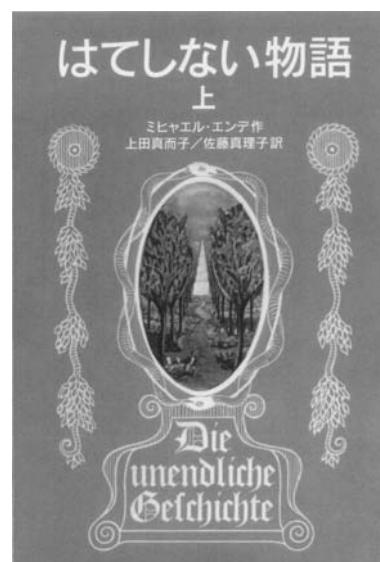
アメリカのテレビドラマにはおもしろいものが多くありますね。最近では『プリズン・ブレイク』や『24』などでしょうか？でも、ドイツにもおもしろいテレビドラマのシリーズがあります。ドイツのアウトバーンを舞台にしたカーアクションの『アラーム・フォー・コブラ』シリーズ。最近はテロが言われることが多くなりましたが、1972年のミュンヘンオリンピックの際にパレスチナ解放勢力「黒い9月」によるイスラエル選手団の人質、殺害事件が起こりました。（西）ドイツはこの事件の対処の失敗に教訓を得て、対テロ部隊「国境警備隊第9グループ（Grenzschutzgruppe 9）」を設立。この部隊の活躍をドラマ化したものが現在人気の「GSG 9」です。

ドイツ語の聞き取りはかなりむずかしいと思います。でもところどころ聞き取れるところがあり、それだけでも充分。最初は字幕の日本語を見ながら、次は音声中心に見てみるのもいいし、ドラマの舞台のケルン・ベルリンなど、ドイツの街並みを楽しむだけでもいかもしません。

とにかく、好きなもの、興味があるものからはじめるのが外国語と長いつきあいができる秘訣かもしれません。そしてこのようなモチベーションの喚起が、しばしば Mit Fleiß！につながっていきます。



『ネバーエンディング・ストーリー』のファルコン（左）と『千と千尋の神隠し』のハク（右）です。一度映画を見比べてみるとともに、ドイツの作家ミヒヤエル・エンデの『はてしない物語』（岩波書店）も読んでみてください。



『はてしない物語』

毎日フランス語を使う

文学部

高橋秀雄

本誌の今回の「オススメ外国語学習法」という特集テーマは私の内に、まず違和感を覚えさせ、つぎになにやら闘志を湧き立たせた。このテーマを聞いたときの私の率直な感想はこうだ。外国語を学べる機会があるらしいけど、手っ取り早く学べる何か良い方法があるならやってみてもいいな、と少し冷たく構えた新入生像を予想して、そんな学生たちに答えるものとして企画されたのかもしれない、という感想である。しかし、しばらくして、いやそうではなく、これは、どうしても外国語をマスターしたいが、何を、どのように学ぶのか、それよりなにより、なぜ学ぶのか、答えが見出せず途方にくれている学生たちが多くある、そういう学生たちに何か語りかけてほしい、という提案であるように思われたのである。

私は、今大学がいちばん力を入れなければならぬのは、学生たちが外国語能力を身につけるのを助けることだと思っている。しかし、それは彼等に親切な学習法をわかりやすく伝えるのとはちがう。

ここでは、フランス語学習を目指すみなさんとともに、みなさんが普段使っている母語を磨き、さらにつこれから学習するフランス語の力を磨くことができるよう、基本的な問題を考えてみたい。

2つのエピソードの教え

きわめて短期間に外国語を身につけた人の話というのを私たちはよく耳にする。考える材料として、まず、そんな話を取り上げる。

大相撲にはたくさんの外国人力士がいて、みな例外なく、短期間に日本語をマスターするようだ。テ

レビの大相撲中継を見ていると、彼等は外国人の勝利力士へのインタビューにもちろん通訳などなしに臨んでいるが、的確、自在に日本語を使い、聴き手のアナウンサーの方も、日本人力士に対するのと区別なく対応している。彼等はどのように日本語を学ぶのだろうか。ある外国人力士が修業時代について話しているのを、印象深く聞いたことがある。食事の支度ができたのを兄弟子たちに伝えるのに、「たべろ」ではないと思い丁重に「たべなさい」と言ったら、バシッと叩かれた。どこが間違っていたのか、理由は教えてくれなかった。

もうひとつ、ある企業の社長の新入社員時代の話。国内のいくつかの部門に回された後、ニューヨークでの営業の勤務が決まった。赴任するとすぐ、英語ができないことを痛感する。けっして逃げないぞ、と覚悟を決め、かかる電話には率先して出るようにした。当然、取引先の相手は英語のわかる者を出せ、というが、ねばった。アパートには、目につくところに何冊もこども向けの本を置き、貪欲にこれらを読み進めた。まもなく、英語で仕事ができるようになった。

以上の2つのエピソードはいろいろなことを考えさせるが、私たちにとって必要なことは次の3点だろう。(1)外国語は、必要があればだれにでもできる。(2)外国語は、自分の意志で学ばなければならない。(3)外国語は、毎日使わなければならない。つまり、外国語学習にとって大事なことは、どのように学ぶかではなく、目標をもって、けっして逃げずに、毎日これを使うことなのだ。

ところで、これから大学で学ぶみなさんは、大相撲の外国人力士やニューヨークの日本人ビジネスマンのように、どうしても外国語を使わなければならないという、切羽詰まった、いいかえれば、外国語学習にとっては「恵まれた」状況にあるわけではない。それに、外国語をマスターすることが大学で最も力を入れなければならないことであるとしても、大学にはさらに、基礎的な学力を養う共通科目について、また、みなさんが専攻した学科について、議論し、考えるために、専門の書物を系統立てて読む

という重要な課題もあることを忘れてはならない。

みなさんは、したがって、外国語を使う生活と書物を読む生活とを両立させ、さらに、サークル活動やアルバイトなどの時間もそこに組み入れた生活設計を自分で立てなければならない。

毎日フランス語を使う

「フランス語を使う」に話をしほる。「フランス語を使う」と言っても、フランス人と会話をする場合だけを考えるべきではない。また、勉強が進めばフランス語の本を読んだり、フランス語で日記を書いていたりするところまで行くだろうが、そのときまでフランス語を使うことを待つことはない。入門フランス語の第1時間目の授業時間からフランス語は使えるのだ。はじめて習ったフランス語の単語、短い会話文をくりかえし発音したり、書き取ったりすることも、ネイティヴ・スピーカーの発音だけでなく、クラスの仲間の発音に耳を傾けることも、フランス語を使うということだ。ただ、そこでみなさんが心身を集中させなければならないのは、理解することではなく、表現することである。単語や文法をただ頭で覚えるのではなく、頭と感情と意志を総動員させて表現してみる、聞くときも、耳ではなく、心で聞く、それがフランス語を使うということだ。

「フランス語を使う」の具体的な内容はどのようなものか。これは、学習者一人一人が試行錯誤を重ねて自分で作り上げるべきものであるが、どのように取り組むか、何を行なうかについて、次の2つのポイントを押さえておいた方がよい。

(1) 「やる気」を持続させる

むずかしいのは、勉強内容ではなく、勉強を続けることである。やる気を持続させるために、初・中級段階に達するまでの期間と目標、それに毎日の勉強時間を明確に定めるとよい。たとえば、期間と目標については、1年間で仮想3級レベル（フランス語の基礎的能力を一応クリアした段階）に到達することを目指す、はどうか。毎日の勉強時間を定めるることは最も重要である。なんとしても毎日続ける必要がある。時間は10分でよい。10分というのは、毎

日無理なく継続できる時間だと思う。私は毎朝6時30分から10分間のラジオ体操を長い間続けてきた。何年か前からは「ラジオ体操日記」をつけている。「日記」といっても1日1行、年月日と、「西川佳克／名川太郎」「長野信一／幅しげみ」のように、番組の最後に告げられるその日の体操指導者とピアノ担当者の名前などを書くだけである。寝坊して体操ができなかった日は、名前の欄は空白のまますなる。空白が3日分も続くと、これはいかんと思う。

(2) フランス語には文字がある

何を当たり前のことを、と言われるかもしれないが、学習者のなかには発音、聞き取りに気を配るわりには綴りに無関心の人が多いように思われるのだ。発音、聞き取りの能力を高めるために、とくにフランス語学習においては、聞き取った、そして発音したフランス語を書き取る学習段階が必要である。

それを説明するために、フランス語の文字表記、つまり綴りについて一言。フランス語は古代ローマの言語であるラテン語の話し言葉（民衆ラテンという）が変化してできた言語である。その変化は激しいものであったが、表記においてはラテン語の文字がそのまま採用されている。そのため、さまざまの不都合が生じた。たとえば、ラテンの母音はa, i, u, e, oの5つだが、フランス語には鼻母音を含めて、16個の母音がある。これらの音を表すために、母音字を重ねるなどの工夫がなされた。また、アクセント体系が変わってフランス語では強弱アクセントになったため、ラテン語の多くの語のアクセントのない音節がすり減るようにして消失した。たとえば、ラテン語の「時間」tempus〔テン・プス〕はフランス語では〔タン〕となった。これは後に、発音はそのまままで、表記は語源を尊重してtempsと表記されるようになった。

フランス語の綴りは表記された文字が発音されないとか、発音が文字通りではないとか言われ評判が悪いが、発音と表記の関係は驚くほど規則的であり、文字表記をしっかり意識して書き取りに習熟すれば、はじめて見るテキストでも簡単に音読できる。

さあ、フランス語を使ってみよう。

「アナログ」的 中国語学習の心得

国際コミュニケーション学部

塩山正純

2009年5月に学会発表でドイツに出かける機会がありました。なんで中国語教師がヨーロッパかはさておき、ちょうど国内では新型インフルエンザが異様に騒がれている時期でした。道中、空港や機内で外国人と日本人の装いの差や、平静さを保ったドイツの街の様子を見るにつけ、日本人のあの騒ぎ様が少々異様に感じられました。外国のメディアで日本人の過剰反応の奇異さが報道されていたのも納得できます。また、日本人はこういう時にはテンションが上がるのに、こと外国語学習になると「借りてきた猫」のように妙に大人しくなってしまうのを、外国語の授業を担当していくいつも不思議に思います。

さて本題の中国語のオススメ学習法と言っても、「寝ている間にあらびっくり」なんて言う方法は思いつきません。身も蓋もない言い方をすれば、結局のところ、地味な努力の継続がいちばん近道であろう、という結論に落ち着くでしょう。まあ、それで話が終わってしまっては、ちっとも面白くありませんから、私のこれまでのアナログ的学習人生の経験に基づいて、「听（聴く）说（話す）看（読む）写（書く）」それぞれにアナログな方法というか、「心得」的なことを紹介しましょう。この4つがリンクしていることは言うまでもありません。今回のLLニュースは春の入学シーズン発行ということで、これから初級を始める皆さん向けにお話します。但し、中級以上の皆さんも「なるほど」と思えるところがあればぜひ活用して下さい。

1 “听（聴く）”

ふつう“听（聴く）”というと会話などのリスニング能力のことを考えますが、基礎レベルでの“听（聴く）”で大事なのは、まず中国語の発音を正し

く聞き分ける能力をつけることです。それにはテキストの付録CDを活用しましょう。CDの発音編を繰返し再生し、耳に叩き込んでインプットして、分かる音の数を増やしていくことが必要です。その際、やみくもに聞いても頗る効率がわるいです。中国語は原則「1漢字=1音節」で、子音21と単母音6その他を基本としていることを意識しておきましょう。初級テキストの最初か最後のページには必ずといっていいほど全音節表が付いていますからこれも要チェックです。最初は声に出さなくともいいので、頭の中で繰返して、中国語の音をインプットしていきましょう。「口に出す」アウトプットは慌てず、時間をおいてからでも構いません。発音をキチンと覚えてからでも間に合いますし、むしろそのほうが良いという考え方もあるくらいです。

それから音そのものと同時に、アルファベットによる中国語の発音表記「ピンイン」も併せて覚えましょう。これが身に付けば、その後の学習効率がぐんと上がります。このあと4番目の“写（書く）”とも関連しますが、単語やフレーズや文の音声を聞きながら、ピンインと漢字を紙に書き写して、耳と同時に手に覚えさせるのも1つの方法でしょう。

2 “说（話す）”

“说（話す）”は普通なら「話す表現能力」のことと言いますが、初級レベルでは、正しい発音を身につけるということでしょう。発音したその瞬間に「私はいま『あ』を発音したが、『あ』を発音した自分の口はいったいどんな形をしているのだろう」なんてことを自問自答する変わり者は日本だけでなく、どこの国でもかなりの少数派のはず。いちいち考えていたら気持ち悪くて喋れやしません。でもこれは、習い始めのときには非常に重要なことです。

当たり前のことですが、中国語も外国語です。ということは当然、母音、子音ひとつとっても日本語と違う難しい音が沢山あるのです。授業でも、心ある先生なら口の形を懇切丁寧に、しかも正しい発音つきで、時間をかけて分かりやすく説明してくれるでしょう。大学生ならこれで頭のなかでは理解できますが、実際に自分の口がその通りになっているかというと、これがかなり怪しい。やはりそこは自分

の目で確かめて、先生と同じようにしないと同じ音は出ないんです。そこで、まずは100均ショップで手鏡をひとつ買いましょう。教室でも、家での復習でも自分の口をチェックできる手鏡は是非必要です。それに、パソコンの録音機能やICレコーダーが用意できれば尚良し。手鏡で自分の口を確かめるといいましたが、これだけではまだ安心できません。手鏡に向かって発音する自分の声を録音してチェックすることが肝要なのです。というのも、ほかの人が聞く「私」の声は、実は自分がそう思っているのとは随分ずれがあるのです。他のひとが聞いても正しいと思ってもらえる音を身につけるためにも、自分の発音を「他人」の声だと思って客観的に聞くのです。その録音を担当の先生に聞いてもらうのも1つの手です。その場で発音して直してもらうより、先生と一緒に、自分も聞き手のひとりになれば、冷静かつ100%客観的に聞いた上で、的確なアドバイスが貰えるでしょう。

こんなに手鏡と録音での確認にこだわるのも、言語はまず音だという基本があるからです。信じるあなたは中級に進んだときに「なるほど！」と頷くでしょう。信じないあなたは「やっておけばよかった、時間よ戻れ」と言って後悔するでしょう。

3 “看（読む）”

ある外国語学習の入門書では、成人してからの外國語学習では「音感、文法力、丸暗記する根性」の3要素の有無が出来を左右すると言っています。「文法なんて関係ないよ」という力技の猛者もいるでしょうが、18歳から新たな言語を学ぶのは、子どもが自然に母語を習得するのとは訳が違います。そこは「大人」的作法でいくのが早道。多くの人が苦手だと思い込んでいる文法、と言っても何も難しいことではなく、幾つかの代表的な品詞、例えば名詞、動詞、形容詞、副詞、助動詞、助詞とその役割、主語、述語、目的語、補語といった文法用語を頭に入れておいて活用するだけのことです。教える方も授業で品詞名や文法用語を使う方が教えやすいのですが、皆さんにとっても闇雲に色んなことを詰め込むより、よっぽど合理的な大人の学習法だと思います。

4 “写（書き）”

最後の“写（書き）”も本来は作文能力のことを指すのでしょうか、ここでは簡体字の書取りについてお話しします。昔は中国も日本も旧字体（繁体字）を使っていましたが、現在、中国ではこれを簡略化した簡体字を、日本では小中高で習う常用漢字を使います。たまに「日本の漢字が本当で、中国語の簡体字は当て字」と思い込んで簡体字をなかなか覚えないひとがいますが、実は中国ではこの簡体字が正式ですので思い違いのないように。とは言っても同じ漢字が殆どなので、文字を学ぶという点では、日本人は欧米人などの学習者に比べて格段に有利な立場にあります。ですから、有利なことを自覚して、「得してるんだから、その分、お互いに違うところや特徴的なところだけをさっさと覚えてしまおう」と楽天的に考えてしまえば良い訳です。

漢字の書取りに役立つのは小学校のときに使った漢字書取りノートです。何もこれをわざわざ買う必要はなく、このノートのレイアウトの要領で書取り練習をしようということです。授業のテキストに出てくる漢字をさっと読み飛ばさずに、一度は「虫めがね」を使うくらいの勢いで注意深く観察してみて下さい。ちょっとでも見慣れぬ格好をした漢字はもれなくチェックして、書取りを続けて覚えてしまいましょう。

お断りしておきますが、ここでお話しすることは科学的に実証されている訳ではなく、私のこれまでの個人的な経験に基づくものです。しかし、基礎の段階には恐らく役立つはずですから、まあ、だまされたと思って1セメスターほど忍耐強く実践してみて下さい。

さて、話は冒頭のドイツ行きの際に感じた、日本人の感覚と世界との「ズレ」に戻ります。ふと「外国語を学ぶ」ということを考えたときに、外国語のスキルを磨くのと並行して、ものごとに対する外国人との感覚の「ズレ」もちゃんと分かっておくことが大事だなあ、とつくづく思います。外国語を学ぶ学生の皆さんには、おうちや自分自身の経済情勢が許すなら、留学や旅行などに出かけて、積極的にどんどん外の空気を吸って、色々な世界を見てバランス感覚を身につけるようにしてほしいと思います。

外国語学習には 何が大事か？

経済学部（ロシア語担当）

清水伸子

1. 「話す」だけでは足りない

昔とか今とか言うとずいぶん年寄り臭い感じになりますが、昔に比べて最近の学生さんは外国語学習の一一番の目標として「話せるようになりたい」というのを挙げる人が多いように思います。いや、昔の学生も語学を学ぶ以上はその言語を使えるようになりたいと考えていたと思いますが、最近の学生（または語学学習者）は昔に比べて、文法学習や読解をあまりしたがらないように思います。しかし、これは間違っています。

語学学習には「読む」「聞く」「話す」の3つの分野があります。私は授業でもよく言うのですが、「読む」ためには読まなければなりませんし、「聞く」ためには聞かなければなりませんし、「話す」ためには話さなくてはなりません。それぞれの訓練が必要で、「話す」練習ばかりしていても「読む」力は伸びません。

その言語で流暢に会話をしている人を見ると、その人にとっては読んだり書いたりすることも簡単なのだろうという気がすると思うのですが、実はそうでもありません。

日々の生活の中でちょっと友人と会って立ち話で言葉を交わすとか、スーパーのレジや喫茶店で注文する場合などは、だいたい決まったテーマのことを話していますから使う単語も表現も限られています。そして、基本的には自分の知らない単語や表現はしゃべる時には使えないですから、先に書いた状況で流暢にその外国語をしゃべっていたとしても、それは自分の知っている単語や表現の範囲内でしかその言語を使っていないということで、それほど高

度なことをやっているわけではないのです。

これに対して、読んだり聞いたりする場合には、当然自分の知らない表現や単語に遭遇することがあります。ですから、「流暢に外国人と言葉を交わすことができる」ということが「その言語ができる」ということとそのままイコールだとは言えないのです。やはり、「読む」「聞く」「話す」の3つの力をバランスよく同時並行で訓練していくことが大事です。

2. 「読む」は文法、「話す」は反射神経

「読む」「聞く」「話す」の3分野をバランスよくという話をしましたが、文法は「読む」訓練の中で最も正確に学習できます。

人間は話す時には完璧な文を連ねているわけではありません。極端な例を紹介すれば、お互いに分かっていることなら、省略してお互いに一言づつ発するだけで会話が進んでいくこともあります。「聞く」場合も同じで、どういうことが話題になっているのかが分かっていれば、全てを完璧に聞き取れなくても、話のポイントになる部分さえ聞き取れば相手の言っていることは理解できます。ですから、「聞く」や「話す」訓練では文法学習はしにくいのです。しかし、文法学習がおろそかになると、いつまで経っても「これは机です」程度の文が並んだテキストしか読めない、聞けない、話せない、となりますし、少し勉強した後の初級後期や中級の学習に入った時の伸びが断然違ってきます。

これに対して「話す」訓練で大事なのは反射神経で、実は「話す」はスポーツと同じなのです。

「話す」時に、頭では分かっているのだけど体がそういう風に動かないということでは駄目なのです。ゆっくり言葉を選びながらしゃべることがいけないわけではないのですが、あまり間が空くと、相手が「話しが終わったと思って」あるいは「助け舟を出そう」としてしゃべり出し、結果、言いたいことが言えなかった、となる可能性があります。つまり、しゃべる時には単語や文法を思い出したり頭の中で

組み立てたりしていってはいけないということです。

特に初級レベルで「話す」ためには、文法を理解しておくよりも音声表現として固定化したセットで暗記しておいてすぐにその表現が出てくるレベルにまで訓練することが必要です。ロシア語でЛюбишь? (リュービシ?) 「あんた、好き?」と聞かれて、「愛している」の動詞活用を頭の中でなぞっていてはいけないです。考えなくとも脊髄反射的にЛюблю. (リュブリュー) 「好きだよ」またはНе люблю. (ニエリュブリュー) 「嫌い」が口をついて出てこないといけないです。

3. 「読む」「聞く」「話す」を同時に訓練するには?

それぞれの分野の効果的な訓練方法はそれぞれにあると思いますが、3つ同時にというと、愚直なのですが、一度精読したテキストの音読が最も適しています。しかし、音読するテキストを選ぶ際のポイントがあります。まず、音声CDがついているものを選ぶということ、そして「話す」訓練も兼ねるならばテキストのテーマはあまり「硬くない」テーマのものを選ぶということです。

なぜ音声CD付きのテキストなのかというと、音読とはいっても単にテキストを見ながら読むのではなくて、一度精読したテキストを見ずにCDで音声だけを聞きながらシャドウイングする(聞こえてくる音声よりも少し遅れて繰り返す)とともに効果的だからです。単語も覚えていきますし、文法を正確に理解していないと自分がシャドウイングしている時に聞こえた音声を自信を持って復元することができません。つまり、シャドウイングでは文法確認もできるということです。そして、どの言語にも口語と文章語の違いがありますので、「話す」訓練も兼ねるならば文章語で書かれたテキストの音読は向きません。インタビューテキストのシャドウイングなどが最適でしょう。

English JournalやCNN Englishのような、ページの半分にはテキスト、もう半分にはその訳が掲載されているCD付きの雑誌が販売されている英語などで

はシャドウイングのテキストを探すのは難しくありません。自分のレベルと興味に照らして学習するテキストを選べばよいでしょう。

私の担当のロシア語では、最近になってようやくCD付き市販テキストが増えてきましたが、初級学習者にはシャドウイングが難しかったり、そもそもシャドウイングには不向きなテキストが少なくありません。しかし、その中にあって、ロシア語検定試験の実施母体である東京ロシア語学院の検定試験過去問の聞き取りテキストは、長さ、内容、使用語彙の点でシャドウイングに最適です。初級者ならば4級の過去問を、中級者ならば3級で力試しをしてから徐々に過去問の級を上げていけば良いでしょう。ロシア語検定試験の過去問は豊橋のLL自習室に過去10年分ほど入っています。是非、活用して下さい。

外国語学習法にはオイシイ方法などありません。もしそんなものがあったら次々と新しい教材が発売されたりしないはずです。最終的に言えることは、目新しいことではありませんが、どんな方法・テキストでも良いので長く続けるということ、そして長く続けるためには、自分にとって苦痛でなく楽しく興味の持てるものであるということです。その言語の歌を覚えて歌う、友達を作る、その国に行くなど自分が学習していく上で楽しくなる目標を見つけることも大事です。その言語を勉強してみたいと最初に思った時のきっかけをいつも心に留めておいてくださいね。



絵本『楽しいアルファベット(1925)』より、
Z(「するい鳥」)のページ。

オススメ韓国語学習法

非常勤講師
世古口 真

タイトルは「オススメ韓国語学習法」ということだが、これは一概には言えず、これから韓国語を学習する人、既に学習を始めている人にとって、それぞれ目的、目標があり、その目的、目標に見合った人それぞれの学習法がある。

これまで大学等で学生に韓国語の学習の動機、目的を聞いてみた結果、大まかに次のようになる。

- 1) 旅行－韓国を旅行し、旅行するにあたって簡単な日常会話を学びたい。食堂等でメニューをみて注文してみたい。
- 2) 学究－韓国の歴史、文学、文化（芸能、料理、スポーツ等）に関心があり、韓国の本を原文で読み、さらなる理解を深めたい。
- 3) 語学－語学としての韓国語に興味がある。あのハングル（韓国、朝鮮文字）の仕組みを理解したい。
- 4) 母国語－韓国、朝鮮籍である。日本で生まれ育っているのでハングルが分からぬ。
- 5) 交流－友人、知人、親戚がいてハングルでコミュニケーションしたい。
- 6) 何となく－日本のお隣だし、テレビドラマ等で何となく親しみもあるし、ちょっとやってみようかな。

このような動機で韓国語を始めようと思っている人、すでに始めている人がいるわけだが、目的は様々である。6つの枠でまとめてみたが目的が2つ、3つある人もいるだろうし、また勉強しているうちに最初の目的とはかけ離れたものになっていくこともあ

ると思う。目標にするものも人によって違う。その目的、目標に少しでも近づきたい。近づくにはどうしたらいいのか。みなそういう疑問を持ちながら学習している。

韓国語は日本語と語順がほぼ同じで、文法的にも類似点が多いため、日本人、日本語を母国語にしている人にとって非常に学びやすい言語であると言える。最初、あのハングル（韓国、朝鮮文字）をみて、何だ この文字は・・・とつづきにくそう、難しそうと思った人も多いであろう。しかしあの文字は読み方（子音と母音の組み合わせ）を覚えてしまえば意味がわからなくても文章が声を出して読めるようになる。そうすると漢字語の発音が規則的なため（韓国語は漢字語、固有語、外来語の3つ、もしくはその組み合わせで出来ている。）初めての単語でも発音から想像して意味が分かる場合が多く、入門、初級者はかなり早い段階で学習の手ごたえを感じることができる。ただ日本語にはない発音変化（濃音化、激音化、鼻音化等）があるのでその発音変化を意識して練習し、覚えていくことが必要である。ちなみに同じ時間だけ学習した場合、到達する水準が他の言語に比べ、明らかに高いというデータもある。

ところで語学の学習は「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの能力分野があり、その4つをバランスよく習得することが必要になってくる。バランスよく習得したいところだが人によっては、私は「読む」「書く」は得意なのだが、「聞く」「話す」が苦手だと言う人が多くいる。日本語を母国語にしている人にとって日本語が他の言語と比べ、発音の種類が少ないため、他の言語の発音を聞き分ける、言い分けるのが難しいと言われている。他にも日本の文化的土壤の要因も考えられる。大学の韓国語授業は週一回90分、年間28週程度のところが多く、このため学習があまりはかどらないことがある。基礎だけで終わり、次のステップに移れない

いうところが多い。そのため韓国語、韓国に関心のある学生はそのまま学習をやめてしまうか自分なりの学習方法を考えることになる。さらなるステップ、語学学校、またはカルチャーセンターの中級に通うか。しかしコストもかかるし、時間が折り合わない。そこで自習しながら次のステップを目指すかということになる。

後で自習用の推薦図書を挙げるが、その前に韓国語の効果的学習法は何ですかという質問をよく耳にするのでその質問から自分なりの学習法というのを考えてみよう。

「効果的な学習方法はありませんか。」

これは前述したが、目的によって学習法も異なる。各種検定試験が韓国語にもあるが、そこに意義を感じ、その検定試験に見合った勉強を体系的にしている人。ドラマなどから文法事項はさておき、そのシチュエーションでの会話をそのまま覚えて、後から単語、文法事項を確認するというやり方の人。人それぞれである。どのような学習方法があり、自分にはどの方法があっているのか。それを探すのは大変かもしれない。

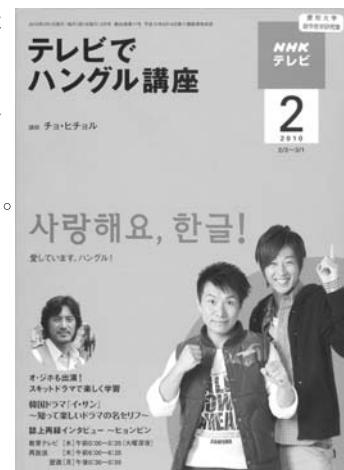
どんな方法をとるにせよ、韓国語をうまく話したい。うまくなりたい。まずそういう切実な思いがなければいけない。真面目に着実に正面から韓国語に取り組んでいく姿勢はもちろんレベルアップに欠かせない。また楽しく続けていくには映画、ドラマ、音楽などを使ったアプローチも必要であろう。それらをやりながらさらに実力アップする方法の一つとして現在の実力以上のものに挑戦してみることである。

その挑戦の一つとしてスピーチコンテストがある。この大学にもある。これはかなり思い切った覚悟が必要であるが、効果があると信ずる。初級を終えた、または終えつつある段階でまとまった文章をそのまま暗誦するのだ。話す内容を決め、日本語で原稿を作り、これを韓国語に直して、ネイティブ先生のところに持っていく、文法事項、発音変化等をチェック

してもらい原稿完成。その後もネイティブ先生のもとに足しげく通い、先生に原稿を発音してもらい、それを録音し、テープが切れるとほど聞く。スピーチコンテストで求められるのはスピーチ内容はもちろんが声の大きさ、発音の正確さ、そして抑揚（イントネーション）である。前述した「読む」「書く」「話す」「聞く」をフルに活用し、五感をすべて使いこなした感覚である。スピーチのまとまった文章をそのまま覚え、聞く側にちゃんと伝わる様に意識しながら発音する。自分の言いたいことを表現し、相手に伝える。スピーチの中に出てきた表現は頭の中にしっかりと残り、その後の日常会話の中でも頻繁に登場するようになる。ここで自分の実力が1ステップも2ステップもアップした実感を得る。初級を終えようとしている段階で進歩がみえない状況にあった時、もうこれ以上はうまくなれない、うまくならないという不安はここで消え去る。相手に伝えたいという気持ち、通じたときの嬉しさは忘れるうことのできないものになる。

さて自習用学習書を挙げてみる

- 1) NHKの『テレビ、ラジオのハングル講座』である。テキストも音声CDも安く売られている。基礎段階を終えた人も復習しながら楽しく学べるような配慮がなされている。特にラジオは朝晩決まった時間に必ず聞く習慣をつけるといった意味もいい。継続して毎日ハンブルに触れるということが大切である。



2) 『韓国語ジャーナル』(アルク)

韓国語ジャーナルはムック（書籍と雑誌を合体させた本、ビジュアル重視）として年4回ほど発行されている。韓国語初級レベルから中級以上の学習をしている人まで「幅広いレベルの人が学習できる」ことが韓国語ジャーナルのコンセプトである。参考書的なコンテンツだけでなく映画、ドラマ、音楽など芸能情報や韓国最新ニュースなど様々な記事も掲載されている。



3) 『Campus Corean はばたけ！韓国語』

野間秀樹 他著（朝日出版社）

文法や表現についての解説は図解を多用した簡潔な説明となっており、イントネーションを図示するなど言語学と言語教育の最新の成果が盛り込まれている。各課本文内容で一つのストーリーになっていて表現を記憶するのに役立つ。本文内容も面白い。テキストに直接書き込みできる練習も多い。独学でも付属のCDとともに勉強すれば大いに活用できる。



オススメじゃん!! タイ語学習法

国際コミュニケーション学部

加 納 寛

はじめに

タイ語を学ぶのに必要なこと、それは…全ての外国語と同様に「熱意=ヤル気」しかない。それをどうやって身につけるか…？ はっきり言えば、こればかりは親でも先生でも宇宙人ジョーンズ(@道路工事中)でも、どうすることもできない（神様なら何とかなるかも）。結局は本人の気持次第だ。じゃ、がんばりん、お♥し♥ま♥い☺、というのではこの特集「オススメ、外国語学習法」の目的を果たさないので、もう少し書いておくのが近年の大学教員に求められるサービス精神かな。

熱意=ヤル気を維持するためには、まずはその言語を学ぼうと思った動機をもう一度思い出し、常に念頭に置くことである。カッコよく言えば、「モティベーションを自覚的に維持すること」である（略して「モテを意識」）。動機はなるべく具体的な方がよい。「この言語を身につければ、きっと将来いいことがあるに違いない、あるかも…、あるといいな」程度の動機の場合、すぐに「こんなに苦労してもどうせ得られる効果なんて大したものじゃないし、もういいじゃん、やめよ!!」となるのは目に見えている（経験上、早い人で3秒、粘る人で1ヶ月である）。「就職に有利かも」とか「異性にモテるかも」くらいの具体性ではまだまだ3日から3か月程度の熱意持続効果しか得られないはずだ（当社比）。「タイ語ができるようになって駆けつけるから待ってろよ、XX業界!!」とか「タイ語ができるようになったらXXさんが私を振り向いてくれるわ!! LOVE!!」くらいの個別具体性をもって、はじめて熱意は持続する。なお、こうした動機は、ウシさんが食べてしま

った餌をもう一度胃から口に戻して反芻して噛みしめるがごとく、できるかぎり毎日毎時間思い出して噛みしめること。できれば折に触れて口に出すとなおよい（電車の中でやると不審人物と間違えられて捕まっちゃう恐れもあるのでちょっと注意。てか、そんなことを電車の中で大声で言ってるヤツは間違いじゃなく不審人物だと思う）。

さらには、人間は上記のような自律的なモティベーションだけでは持続的に動けない弱い存在なので、他律的モティベーション維持法をも併用した方がよい（この点については、荒川清秀先生も『体験的中国語の学び方』（同学社、2009）に書いておられるので参照してね）。たとえば「毎日XX語の新聞の1面の大見出しだけは読むって神様と約束しちゃつたし」というような他律性は、私のような信心深い善人には効果的である（あなたののような信心のない罰当たりにはオススメできない）。学生らしさを最大限に活かすとすれば、友達をうまく（相互に）利用して、「月水金の昼休みにはタイ語で会話しよう」、「火木の昼休みは辞書の早引き競争をしよう」などという約束をしてしまうことである。なお、人間は弱いものなので、できるかぎりルールを厳格にしておく必要がある。そうしないと、1週間で挫折するか友人をなくすだろう。「そんなことで友人をなくしたくない!!」という、「友情」の意味を思いっきり履き違えちゃってるあなたにも、仮のごとく寛大な私は愛大生用特別スペシャル・ゴージャスな方法を用意している（見よ、このサービス精神!!）。それは愛大生の基本的性格を逆手に取った画期的チョ一簡單他律式モティベーション維持法、名付けて「ケチ²愛大生は今日も行くだら～!!大作戦」である。どうするかといえば、有料の語学講座受講か検定試験受験を、何も考えずにエイヤッと申し込んでしまうことである。ケチなあなたは、お金を払ったからには勉強せざるを得なくなっているはずだ。コツは、「何も考えずに」とにかくお金を振り込んでしまうことだ。考える時間を自分に与えると、あなたは絶対に「バイト10時間分のお金を、うかりもしない検

定に払うなんてバカじゃないかしら」とかいう言い訳を考えるに違いないから。言語の勉強なんて「バカ」でいいんです。考えるな!! 布施しろ!! 布施しろ!! 布施しろ!! （でもやっぱり、悪い人に騙されない程度には、考えた方がいいかも…）

ここまで読んで、以上のことを実践する人には、さらに先に進む方法を項目別に伝授しておきたい。なにしろ、母語以外の言語を学習するためには自主的な演練が絶対に必要である。「授業で習うだけでイイじゃんだらりん」というお汁粉のように甘～～い考えは、汁粉でできた脂肪の塊とともに燃やしてしまえ（ゲップ）!!

1、基礎を確立しよう!!

(1) 発音

こればっかりは独学は難しい。母音については、鏡を見て正しい口の形を作るのがよい。声調は、ピアノなどで音をとりながら発音する手が使える。小中学校で買わされたからといってリコーダーやハーモニカを使ってはいけない。発音できないから。バイオリンを弾きながら発音するのも苦しそうだ。カスタネットは音がとれないでやめておこう。

(2) 文法

タイ語の場合、とりあえず最初に習う文法はすぐ簡単だ。とりあえず、文を見たらどれが主語でどれが述語か考えるクセをつけていこう。

(3) 文字

文字の勉強は、タイ語の場合、とりあえず気合いだが、読者は「気合い」などというハードな回答を期待してはいないよう気もしないでもない…。「気合い欠乏症です～」とかいう情けないあなたは、左に書いた他律的熱意維持法を応用すればよい。それは、手紙を使うことだ。タイ人の友人等と文通すれば、自然に文字は覚わる。私の場合、大学2年から4年に至るまで、タイの知人（現在の妻）に毎日1通ずつ雨の日も槍の日も（あったかな？）手紙を書き続けた。彼女からも毎日手紙が来た。これを、日本史の演習でミミズが這ったような古文書を読む要領

で解読していくべき（わからない場合は、文学部の日本史専攻の友人に聞いてみよう）、半年もすれば文字の規則性は体で覚えてしまうだろう。何しろ頭で覚えるより体で覚えるのが大事である。ついでに婚活もできちゃうかも♥（などという雑念は、勉強の励みである）

(4) 単語

とりあえず2000語程度を目標に、市販の単語帳を受験勉強の要領で（わからない場合は名大生などに聞いてみよう）こなしていくべき。ある程度語彙が増えたら、タイ・タイ辞典（いくらちゃんが出てきそうだ）を使って、「パックン英検」（英英辞典に書いてある単語の意味の方を読み上げ、その単語を当てさせるゲーム。NHKの「英語でしゃべらナイト」くらい見とけ!!）の要領で友人とクイズごっこを楽しむと、単語力が飛躍的に向上するだろう。

2、実践力をつけよう!!

(1) タイ文解釈

なるべく楽しい（自分が飽きない）文章を探して読むとよい。その点、愛大豊橋図書館で定期購読しているタイ語新聞や雑誌は使える。3面記事なんかやバイくらい笑えるものも多い。答え合わせがしたくなったら、『バンコク週報』(<http://www.bangkokshuho.com/>)なんかをチェックすると、日本語訳した記事が出ているかも。

(2) 和文タイ訳

日本語の本などすでにタイ語翻訳が出版されているものを選び、自分でタイ語訳してみてからプロのタイ語訳と比較してみるのがオススメ。『ハリー・ポッター』なども含め、語研にいろいろ用意してるので、利用してね。

(3) タイ語聴解

インターネット・ニュースを活用するとよい。先に日本語を聞いておけば、とりあえず何を言っているかは類推できるはず。詳しくは『LLニュース』31号（2005年10月）を見てね。

(4) 会話

映画のDVDやVCDは会話の実例の宝庫である。もっとも、最近は毎年交換留学生がナレースワン大学から愛大に来てくれているので、彼らと友達になってしまえば会話はどんどん身につくだろう（できるかぎりタイ語で話そう）。

(5) 通訳演録

就職なんかしたりすると、通訳とともにやらされるかも。それに備えるには、通訳演録が効果的。方法は3人で組んで、それぞれがタイ人役、日本人役、通訳役を務める。タイ人役はタイ語しか話さない。日本人役も日本語しか話さない。その会話を通訳役がひたすら通訳するわけだ。できるだけ役割を交替するとよい。会話は自由に進めてもよいし、台本を用意してもよい。台本を用意する場合、タイ人役は日本語のみを見てタイ語で話し、日本人役はタイ語のみを見て日本語で話すと3人全員に負荷がかかって一石三鳥。通訳の緊張感も経験できるので、この演録方法は大のオススメである。

結び

さて、どうだったかな？ 少しは参考になったかしら？ 上以上書いてきたことの多くは、タイ語でなくとも応用できるはずだ。でも、結局は言語の勉強を好きになることがもっとも効果的で確かな言語習得法なんだよね。だから「がんばれ!!」とは言うまい。「楽しんで!!」



「気をつけろ!!!」チューラーンコーン大学図書館内のマナー向上ポスター

日本で、日本語で。

国際コミュニケーション学部

山本 雅子

外国語を学ぶ理想的な方法が、その言語が話されている場所で生活しながら学習することであることはよく知られているところです。ですから、日本で日本語を学んでいる人は、理想的な環境に身を置いているのであり、時間の経過とともに素晴らしい効果が期待できるはずです。

1年間生活すれば1年分、2年間生活すれば2年分の成果があり、4年間も生活すれば驚くべき成果があるはずだと誰もが思っています。ところが、この成果は理想的な環境を充分に活かしてはじめて得られるのであって、漫然と時間を過ごしたのでは望むべくもないものだということは見過ごされがちです。4年間も日本で過ごしたのに、こんなはずじゃなかったと悔やむことのないよう、日本で生活しているというこの理想的な環境を十二分に活かした日本語学習法を考えてみましょう。

語学学習を効果的にするのはインプット（入力）とアウトプット（出力）の相乗作用です。インプット無くしてアウトプットはありませんから、まずはインプットが必要です。インプットする表現は多ければ多いほど良いわけです。インプットできる場面を日常生活のなかに意図的に設定し、そこから貪欲に多くの表現を取り入れるよう努力しましょう。例えば、次のような場面設定です。

1 お気に入りの三つの番組

テレビを見よう！まずは面白いと思うお気に入り番組を見つけましょう。ドラマでも、お笑い番組でも、はたまたニュースでも何でもかまいません。そ

して、それを毎週見るようにします。つまり、ここでのポイントは、数週間続けて見られる番組の選択です。その理由は、一つのタイトルのもとにある番組では、そこで使用される表現は同じ範疇に入るものがほとんどだからです。このことは、例えば、料理番組をイメージしてみると分かりやすいでしょう。料理番組に政治用語やスポーツ用語が出てくることはまず考えられません。同じタイトルの番組を数週間見続ければ、何度も同じカテゴリーの表現と出くわすこととなり、自ずとその分野の表現が身につくこととなるのです。

お気に入り番組がひとつ見つかったら、次は、その番組とは傾向の異なる番組を二つ探ししましょう。その番組も数週間続けて見られる番組でなければならぬことは同様です。このようにしてまずは三種類の分野の番組からそれぞれ活きた表現を獲得します。そして、一つの分野に着実な手応えを覚えたら（完璧は望めません）、次はさらに異なった分野へと範疇をひろげていきます。このようにしてすすめていけば、時間とともに広い範囲の表現が獲得されるのは必ずです。

ここで注意しておかなければならないことがあります。面白い内容を楽しむのは大いに結構。しかし、番組を見る目的があくまでも日本語の表現獲得であることをくれぐれも忘れないように。そのためには、いつも手許に小さなノートを用意し、役に立つと思った表現はすぐに書き留める習慣をつけることです。これは結構面倒な作業ですが、これを嫌がったのではこの手法は一切功を奏しないことを自身によく言い聞かせておく必要があります。

2 面白い表現蒐集

「へえ、こんな言い方あるんだ！」「これは使える！」と思う表現を蒐集するのも楽しみながらインプットする方法です。日頃何気なく見聞きしているCMやビルの壁に貼ってあるポスターも、その気になって見てみると、洒落た日本語表現の宝庫であることに気づかされます。絶えずアンテナを張ってい

て、面白い表現に出会ったらすぐに蒐集帳に書き込みます。日本を離れる前にあなたには何冊の蒐集帳ができるでしょか。



「愛知大学 大学案内 2010」より

さて、インプットの方略を身につけたら次はアウトプットの方略を考えましょう。インプットした表現を適切な場面でアウトプットするのです。アウトプットした際の相手の反応によって、その使用が妥当であるか否かが判断され、妥当であるという手応えが得られれば、その表現は自己の運用表現に蓄積されます。アウトプットによって妥当性が保証された表現は、たんに知っている表現というのではなく、自信をもって使用することのできる運用表現として話し手に記憶されます。運用表現として記憶される表現が増えれば増えるほど、その人は日本語の運用能力の高い人、いわゆる、日本語の良くできる人となるわけです。では、どのようにしてアウトプットすればいいのでしょうか。

3 ストーリーテラーになろう。

せっかく日本に住んでいながら、ほとんど日本語を使うことなく一日を終えることが常になっていると嘆く日本語学習者の話を聞きます。また、日本語を使ったとしてもほんの受け应え程度で、長く話すことはあまりないという話もよく聞きます。言葉というものは使用して初めて自分のものとなるもので

すから、こんな過ごし方をしていたのでは、いつまでたっても日本語がうまくなることはないでしょう。下手だから使わない、使わないからうまくならないというこの悪循環を打破するには、自分から積極的に話すという方法しかありません。しかも、ほんの二言三言ではなく、短くてもいいのでストーリーを話す必要があります。

ストーリーを話すのに不可欠な要因が話題です。話題の無い人が会話を続けられないのはどの言語も同じでしょう。そこで、活躍するのが上のインプットの方略です。1, 2の方略からは実に豊かな話題を取り出すことができます。テレビ番組からの話題は今日的な共通の話の種となるでしょうし、言葉の面白みの話題となれば、それをもとに話を広げていくのは容易でしょう。

4 自分のためのエッセイスト

書くことも力につけるアウトプットです。日本で生活しているということは人生における貴重な体験をしているわけですから、これを記録として残しましょう。それも、たんに機械的な記録ではなく、将来読み返して楽しくなるようなエッセイ集ができるよう心がけるといいでしよう。書くというと何かとても難しいことのように考えがちですが自分のなかの自分に語りかけるつもりで書き始めれば抵抗なく書き続けられるでしょう。

インプットとアウトプットの相乗作用を意図的に狙う活動には上に書いた以外にもいろいろな組み合わせがあるはずです。自分に合った組み合わせを工夫して創り上げ、日本で日本語を学ぶという環境を有効活用して、最高の効果を挙げるよう努力しましょう。日本で時間を過ごした人でなければ獲得できない、豊かで滑らかな日本語の力が必ず身につくにちがいありません。

LL Tea Time

Life Changing Experience in Hawaii

国際コミュニケーション学部4年

野々山 千 花

2008年8月から約10ヶ月間、アメリカ合衆国はオアフ島ホノルルに位置するハワイ州で最大の私立総合大学であるハワイ大学に交換留学生として派遣されました。私にとっては2度目の長期留学であったので、海外で生活することに対する不安は少なく、その分期待で胸がいっぱいでした。語学習得を第一目的とした1度目のカナダ留学とは異なり、大学への留学は英語が話せるることはもちろんのこと、英語で自分の興味のある分野について学び研究するという内容も難易度も全く異なるものでした。

ハワイ留学と聞くと、多くの人が“遊学”的な印象を抱いてしまいがちですが、大学留学ともなると観光地ハワイであれ、とても厳しくシビアなものでした。日本ではほとんど足を運ぶ事のなかった図書館が、学校・部屋に次いで多くの時間を過ごした場所となったのです。

大学の授業はディスカッションやプレゼンテーションを中心に行われ、事前に予習をしておかなければ授業についていくことができないのは当たり前のこと、毎回の課題や定期的に行われるテストやレポートのために日本の大学生とは比較にならないほどの勉強浸けの日々でした。その分得るものが大きいので、自分の力が確実についていったことは確かです。

私が受講していたクラスのうちの二つをここで紹介します。一つ目は“Hawaiian Studies”というクラスで、ハワイと聞くと誰もがイメージするような典

型的な観光地のイメージとは全く異なり、戦争にまつわる歴史、アメリカ社会との葛藤、消えてゆくハワイ独自の伝統、文化や言語などといった知られざる繊細な事情までをも学ぶ授業でした。ハワイのイメージを覆されるような内容で、教授自身もハワイ出身でありとても熱意のある方で彼女の講義は毎回とても惹き付けられるものがありました。

二つ目は、“Communication in Multicultural Organization”です。半年間のグループワークで進められたこの授業、実在の国際的な企業における職場でのコミュニケーションについて研究するものでした。私たちのクライアントは世界的ブランドホテルとして名高いシェラトンでした。まずプロジェクトの参加の同意を企業に求める作業から始まり、企業に関する資料を集め企業研究。そして職場を訪問し、実際にどのように職場でのコミュニケーションがとれているのかを観察。さらにマネージャーから従業員にインタビューをしたりしました。時々、周りのネイティブと自分の英語力やクラスでのパフォーマンス力を比較してしまい落胆することもありましたが、自分の力を信じて絶対に諦めないで最後までやり遂げようと思い、常にBest Workを心がけ、一生懸命取り組みました。とても大変なプロジェクトでしたが、語学力はもちろんのこと、リサーチ力等々、たくさん学ぶことができた授業であり、Clark教授やクラスメイトのサポートがあつてやり遂げることができました。Clark教授は帰国後の2009年6月7日に京都で開催された異文化コミュニケーション学会(SIETAR JAPAN)に私を教授のゲストとして招待してくださったなど、たくさん学ぶ機会を与えてくれ、恩師と呼べるような素敵なかいとなりました。

ハワイで出会った人達は皆、言語や文化、国籍、年齢など気にせず、困った事があればすぐ助けてく

れるなど、私を“Ohana”（ハワイの現地語で“家族”的意味）のように扱ってくれる人たちばかりでした。この長期留学を支えてくれたのも成功に導いてくれたのも、ハワイで出会えたすべての人たちのおかげです。彼らがいなかつたら今の充実感や成功はなかったと思う程、ハワイ生活において欠くことのできない大切な存在でした。10ヶ月の留学でここには書ききれないくらい、英語力以外でたくさんの知識を吸収し、素晴らしい教授の方々や友達と出会うことができ、一生忘れられない経験をすることができました。それらすべては留学をするということ、英語を学ぶことの醍醐味であります。この留学で学んだすべてのことは、これから社会へ出て行く私の強みになっていくと信じています。まさにLife Changing Experienceがありました。



ワイキキビーチでの新年カウントダウン

最後に、これから留学に行く又は今後留学したいと考えている後輩にむけての私からのアドバイスです。

私は長期留学というものは、自分を知ることができ、むしろ変えることができ、将来の可能性を広げることのできる学生時代にできる最も価値のある素晴らしい経験の一つだと信じています。もし留学する機会を手に入れたら、全てのことに前向きに新しいことに恐れず挑戦し、充実した留学生活を送っていって欲しいと思います。そしてあなただけの“人生が変わるような経験=Life changing experience”を体験してください。

Coolな日本人！ フランスで学び得たこと

国際コミュニケーション学部3年

山田 麻雅

私は2年次夏休みから約1年間、フランス・オルレアン大学での留学を実現させました。このままで英語もフランス語も中途半端になってしまいます。海外に興味はあり、留学はしてみたいけどお金、親・・・そんな思いを1年次秋頃から抱き始めた私は、ある先生の助言を受けて留学を決意しました。フランスを選択した理由は大学でフランス人の友達ができ、留学は英語圏だけではない、と視野が広がったことからでした。

まずは父親への説得から始まりました。案の定、話を出すたびに一言で跳ね返され、門前払い状態でした。でも私の思いは決まっていました。2年生の8月から私はフランスに行く。何度も何度も怒られ、一時期の冷戦状態も経て、何回話し合ったでしょうか、ようやく交換留学の試験に挑戦する許しをもらいました。もう後は突っ走るのみです。試験をパスして念願のフランス生活が始まりました。

何言ってるの？？分からぬ！・・・そのスタートは悲惨なものでした。一時的ホストファミリーに入った私に待ち受けていたのは相手の言っていることが分からぬ、私も言いたいことが言えない、つまりコミュニケーションがとれないという状態でした。これが私に火をつけその後移った寮生活での半年は、死に物狂いの勉強でした。部屋の家具には単語を書いた付箋だらけになりました。パン屋さんはこれまでかというぐらい通いました。（日本のように自分で好きなものをとるカタチでなく、自分で欲しいものを伝えて買うスタイル）とにかくチャンスがあれば話しました。これらの努力も実り、半年後にはかなり上達し、友達の幅もどんどん広がっていました。

もっと会話をしたい。その思いで友人の紹介を経

て1月からホストファミリーに生活拠点を移しました。仕事は退職された老夫婦2人の家庭です。しかしそこでの問題はまた相手の言っていることが分からぬといふ壁でした。この半年でつけた力が水の泡だったかのように思う日々でした。しかし、1週間でその思いはなくなることになります。始め理解できなかつた理由は、今まで同世代の人達としかつき合ひがなかつた私にとって、60代の人の話し方や使う言葉は未知の世界に近かったのです。この時気付きました。いつも同じ人と話していた私はその間でとれるコミュニケーションから、自分に満足していました。このことから、現状に満足せずに一人でも多くの人と会話を的大切さを学びました。

このホストファミリーは毎年日本人の受け入れをしているベテランさんでした。いろんな日本人を見てきたとのことです。日曜日には娘夫婦と孫（5歳と2歳）が遊びに来て一緒に公園で遊んだり、庭でバーベキューをしたり、時には子供と一緒にになって鬼ごっこをして走り回ったり、楽しいひと時を過ごしました。ある日のこと、5歳の孫のお誕生日会でいつものようにしゃいで遊んでいると、夫のMigeulが私に言いました。「あなたは本当にCoolだね、今までの日本人の中でも」Cool？私はその言葉を聞いた時微妙な心境でした。私は冷たい人、ということなのだろうか。しかし聞き返してみると、「あなたはとても親切、それに日本人なのにおどおどしていない。壁を作ろうとせずになんでも吸収しようとする人だね。」とてもうれしかったです。こんなほめ言葉を頂いたのはもちろん初めてでした。どうやら話をしていくと、今まで受け入れてきた日本人は壁を作っていて親切だがフランクな関係にはならなかつたということでした。しかし私にもどう接していくべきか悩んだ時期があり試行錯誤の末のこの言葉だったので関係を作っていく難しさは分かります。それでも自分への自信につながりました。

フランス・オルレアンでの生活と人の出会いを

通して、本当にさまざまなことを学び得ることができました。外国に出て分かる日本の存在、そして自分の小ささ。自ら壁を作らずなんでも吸収していくことの大切さ。チェチェン・ロシア・韓国・スペイン・トルコ・中国・アメリカ・・・等多くの人と生活・文化・宗教の違いを越えて接することにより相手を理解しようとする心を持つこと、そして尊重してうまく折り合いをつけていくことの大切さ。時には日本人だからという理由で人種差別も体験しました。まだまだありますが、本当にこの1年間は私にとって中身の濃い充実したものになりました。何よりこれら学び得ることのできた機会、1年間の留学ができたことに本当に感謝します。この場を借りて私を支えてくれた友達・仲間・先生・親にお礼申し上げます。ありがとうございました。



ホストファミリーと食事

言葉とは手段であり、大きな武器にはなりません。今大切なのは、いかに自身をもっと成長させていくことができるかだと思います。そのためには壁を作らず多くのことを吸収し、向上心を持って生活することが大事だと思います。そしてその時コミュニケーションの手段として言葉は大いに活躍してくれると思います。私はこれからも更に自身を磨き、魅力ある人になれるよう努力していきます。

2010年度 外国語検定試験奨励金

語学教育研究室では外国語検定試験合格者に奨励金(図書カード)を贈る自主学習支援の制度を設けています。下記により受付しますので、合格者は申し出てください。

1. 対象学生

愛知大学豊橋校舎 学部及び短大の学生
(大学院生、オープンカレッジ・孔子学院生、
科目等履修生、研究生は除く)

2. 奨励基準

以下の検定試験の基準を追って掲示で発表します。

- (1) 英語検定、TOEIC、TOEFL iBT
- (2) ドイツ語検定
- (3) フランス語検定、DELF・DAL
- (4) 中国語検定、HSK
- (5) ロシア語能力検定
- (6) 「ハングル」能力検定
- (7) タイ語能力検定、実用タイ語検定
- (8) 日本語能力試験、

BJTビジネス日本語能力テスト

※ 上記以外の検定試験は受付に相談してください。

3. 受付期間

以下の期間のうちLL自習室開室日

2011年1月14日(金)～2月14日(月)

時間：月～金は 9:10～16:40

土は 9:10～12:40

4. 手 続 き

「学生証」及び「合格通知書」を3号館のLL自習室まで持参し、申請してください。

5. 奨励金(図書カード)の交付

受付期間終了後に会議で金額を決定し、本人に通知します。

6. 奨励対象の試験

2010年2月16日～2011年2月14日の間
に合格した検定試験で、同一言語は1試験のみが対象。

本年度入学生は入学後受験した試験。

(注) 対象外：TOEFL ITP、TOEIC IP、
カレッジ TOEIC

愛知大学言語学談話会 第35回

公開講座「言語」2010 プログラム

前期

〈会場〉 愛知大学豊橋校舎 研究館1階
第1・2会議室
(会場は都合により変更することがありますので、
当日ご確認ください。)
〈時間〉 14:30～16:30

2010年

- ① 4月24日(土)
「プランショという文学」
尾崎孝之(愛知学院大学教養部教授)
- ② 5月15日(土)
「英語における助動詞構文—
依存文法形態統語論からみた微細構造」
トマス・グロース
(愛知大学コミュニケーション学部教授)
- ③ 6月5日(土)
「蓬左文庫と天主教書籍」
葛谷 登(愛知大学経済学部准教授)
- ④ 6月19日(土)
「ジェーン・オースティンの『エマ』について」
山口啓三(愛知大学名誉教授)
- ⑤ 7月3日(土)
「フランス語のつづりの成立」
高橋秀雄(愛知大学名誉教授)

後期

〈会場〉 愛知大学車道校舎 本館13階
第3会議室
(会場は都合により変更することがありますので、
当日ご確認ください。)
〈時間〉 14:30～16:30

2010年

- ⑥ 9月11日(土)
「レチフ・ド・ラ・ブルトンヌの言葉遊び」
田川光照(愛知大学経営学部教授)
- ⑦ 10月2日(土)
「コトバの学としてのイスラーム神学—
スポーツからカラムへ—」(仮)
鈴木規夫(愛知大学コミュニケーション学部教授)
- ⑧ 10月30日(土)
「秋の糸を吐く青虫」
矢田博士(愛知大学経営学部教授)

- ⑨ 12月11日(土)
「ことばとジェスチャーの繰り返しが示す
言語文化的指向性」
片岡邦好(愛知大学文学部教授)

2011年

- ⑩ 1月8日(土)
「談話構成の要因—情報構造—」
北尾泰幸(愛知大学法学部准教授)

◎聴講無料

どなたでも参加できます。(事前申込不要)